

糸魚川市駅北大火被災者・関係者説明会 議事録（夜の部）

日 時	平成 30 年 6 月 26 日（火） 19：00～20：30	場 所	ヒスイ王国館 2 階ホール
件 名	(1) 糸魚川市駅北復興まちづくり計画（第 1 回変更）について (2) ブロックごとの意見交換会の開催について (3) 防災とにぎわいの拠点施設について (4) 消防本部からのお知らせ (5) その他 ○復興まちづくり情報センターからのお知らせ		
出席者	糸魚川市	米田市長、木村副市長、藤田総務部長、見辺産業部長、丸山消防長、斉藤復興推進課長、五十嵐建設課長、大嶋商工観光課長、横沢健康増進課長 他担当係長	
	被災者関係者	18 世帯 25 人（被災者関係者以外の一般参加者 8 人）	
	報 道	1 社（毎日新聞社上越通信部）	

会 議 要 旨

開 会 あいさつ (米田市長)	(午前の部と同じ)
議題 (1)	(1) 糸魚川市駅北復興まちづくり計画（第 1 回変更）について 説明：斉藤復興推進課長 【質疑】 無し
議題 (2)	(2) ブロックごとの意見交換会の開催について 説明：斉藤復興推進課長、渡辺復興係長 【質疑】 (女性 1) 北側の海沿いの広場について木陰は作る予定にしていますか。 (斉藤復興推進課長) 今のところいくつかの植栽をして日陰をつくる予定としています。 (女性 1) 同じ場所ですが、屋根的なものは建てる予定はありますか。 (斉藤復興推進課長) 今のところ屋根的なものを建てる予定はありません。 (男性 1) A3 ブロックの会合でも VR 映像でシミュレートしていただいた。その時も本町通りから加賀の井さん泉家さんの間を抜け海につながる小路をどうするか見せていただいた。映像のおかげでいろいろな問題がはっきりした。一つは、細い道の両側に高い板塀となっており、圧迫感があると受け止めた。塀の高さは今後検討することもできるが、塀が続くと災害時に避難できないとか、すべての小路沿いにはいらぬのではないかということが実感としてわかった。映像を見せていただいたてありがたかったが、小路沿いの被災者の思いを十分くみとって今後進めていってほしい。 (斉藤復興推進課長) 引き続きブロックの皆様とお話をしながら設計の方をつめていきますので、よろしく願います。

(男性2) さきほど広場を駐車場にしてはどうかという意見に関して、将来の状況に応じてという話があった。まちの中に人が入るには、歩いてくるのか、車でくるのか。今、車社会の中で、ただ公園をつくれればいいではまちのにぎわいは成り立たない。見附のほうとかにも行ってきたが、にぎわいをつくる場所には生鮮食品、駐車場がある。今回被災地の周りに大きな公園はできず、しかも点在している。本来であれば区画整理で集約できればよかったが、今の形となったものをどう活用していくか。広場だけでは人は来ないので、そのことを十分考えて設計して行ってほしい。

(斉藤復興推進課長) 駐車場については整備を予定しているところがあり、大きいものをひとまとめというよりも回遊性を考慮して分散型で用意していくことを考えています。広場だけではにぎわいは出てこないと思いますので、ご意見等いただいている販売等にも利するようなことができないか、にぎわい創出広場等でも考えていきたいと思います。

(男性3) 直接被災した者ではないが、今回初めて参加させていただいた。今ほどいろいろ話をさせていただいたが、これらは計画なのですか、決定なのですか。直接被災していないので、街の様子はわかりませんが、にぎわいづくりということについてすごく考えます。公園の整備、道路の美装化、無電柱化、いろいろと案はあるが人が集まってからの話であって、人が集まらないのにモノばかりつくってもまちはにぎわわないのではないですか。そのあたり、市の方も被災された皆さんも、このまちをどうしようとしているのか、にぎわいは生まれるのか心配しているのですが、そのあたりどのように考えていますか。

(斉藤復興推進課長) モノだけつくってというわけではないと考えています。後ほど説明しますが、まちづくりに携わっていただく住民の皆さまが大切だと考えています。被災者、市民、または市外の方も含め、まちづくりを力をあわせてやろうという事が重要だと考えています。モノだけつくるのではなく、人づくりも進めていきたいと考えています。

(男性3) 人づくりも大切だと思いますが、まちをどうするんですかということを実際に考えていただきたいと思います。

(斉藤復興推進課長) どのような街にしたいかという部分の議論を深めたいということで、復興まちづくり市民会議の立ち上げについて、のちほど話をさせていただきます。

議題(3)

(3) 防災とにぎわいの拠点施設について 説明：斉藤復興推進課長

【質疑】

(男性4) 駅北に住む人たちは、だんだんと年をとっており買い物難民になる恐れがあると思っている。駅北にスーパーなどができづらい。企業は儲からないところには出づらいのはわかるが、住む人の一生を支えてくれるような例えばコンビニエンスストアが防災とにぎわいの拠点あたりがあると助かる。さきほどの説明でにぎわい創出広場で朝市のようなこともできるとあったが、夜はやらない。

(齊藤復興推進課長) 意見交換している若者というのは、社会人として仕事をされている方が中心です。若いと思う人はいいですよという感じで、30代から40代の方を中心に話をさせていただいています。

(男性1) 資料にある、にぎわいづくりのイメージマップには、にぎわいのトライアングルが書かれている。前回の説明会で、拠点施設の方向性を6月に出すという話であったのに、それがとん挫したという形だと思うが、そうなった大きな原因は何なのかよくわからない。資料にこれまでの検討状況と課題として(1)から(3)まで書いてあるが、とん挫した最大の原因はこのうちどれなのかよくわかりません。トライアングルの構想そのものに無理があったために、先に進めなくなっているのではありませんか。そういう見方の検討はされましたか。

(米田市長) 無理があったと思っているが、無理を進めなければ復興の方に進んでいきません。そういったなかで、もう一度商工会議所さんと連携をとりながら決して後戻りするわけではなく、今まで調査してきたことに上乗せしながら、持続可能なものにもっていきたい。巨額のお金もかかるのもう一度確認をさせていただき、人材育成もあわせて進めていきたいということで、6月に示すこととしていた方向性については、もう一度検討をして進めさせていただきたいと考えています。全体の復興まちづくり計画の中でのスケジュールは変えたくないと思っています。そういうなかで、もう一度検討をさせていただきたいということがあります。

(男性1) 説明はわかりましたが、市民会議の任務というものが何なのかよくわかりません。トライアングルの構想をやり遂げていこうというのが任務なのですか。それともトライアングルの構想そのものに無理があるということを検討されるのですか。会議の構成員も出されていないので、どういう性格の会議なのかもよくわかりません。

(米田市長) にぎわいのトライアングルとして防災とにぎわいの拠点は進めていきたいと考えています。それを絞り込むための会議を立ち上げさせていただきたいわけですが、中に入るということを考えたときに誰がそれをやるのか、どれぐらいの規模でやるのかなどをしっかりと考えなくてはなりません。トライアングルという言葉を使って進めてきましたが、もう少し大きい範囲でとらえていかなければならないということで、資料のイメージマップでは、白馬通りから相馬御風の生家のあたりまでをエリアととらえています。局部的でなくもう少し広い範囲を見据えたうえで、拠点施設についても確認をしていきたいということになります。

(男性5) 「にぎわい」のイメージが何なのかをしっかりと考えなければならないと思います。誰でにぎわっているのか、どれぐらいの人がいるのか、住民なのか観光客なのか、若い人なのか年配の人なのかというイメージを共有する場がないという感じがしています。さきほどのコンビニエンスストアについてですが、一日の平均売り上げは、50万円～65万円とされています。ただ、売り上げのうち4割を本社に送らなければならないということも聞いたことがあり、仮に60万

円のお金が糸魚川で使われても24万円は外に出て行ってしまうこととなります。買い物ができるという機能も必要ですが、そのお金を糸魚川のなかで回していくということも考えてなくてはならないと個人的に考えていますが、こういう考えをぶつける場がないという気もしています。さきほど、市の方にまちをどうしていく考えなのかという意見もありましたが、まちをどうしていくかを決めるのは誰なのかというところもあり、それは住んでいる方が決めていいことだと考えています。まちをどうしていくということを考える場をどんどんやっていかなければいけないなと思っています。

前置きが長くなりましたが、市民会議について、誰が参加するとか運営を誰がするとか、市に任せっきりというのもよくないと思いますが、まずは市の方でどのようにお考えですか。

(斉藤復興推進課長) まだ仮称ということで中身についてもつめているところです。メンバーについては、市内の若者や女性を中心に事業等で活躍しまちづくりに関心を持っておられる方を中心に構成させていただきたい。市だけでなく会議所と共催で事務局を持って進めていきます。メンバーも会議所さんと相談しながらお願いをしていきます。

(男性3) 復興まちづくり市民会議について、若者・女性15人ぐらいという話ですが、私は参加することはできるのですか。どういう基準で選択されますか。メンバーや話し合いの結果は市民に公表されますか。また、どのような方向性で進んでいく会議なのか説明をお願いします。

(斉藤復興推進課長) 駅北エリアにおけるまちづくりについて全体的なイメージを共有できるように、まずは全体のイメージを話し合っていきたいと思います。その中で、拠点施設についてもどんなものを必要とされるか等を議論していきたいと思います。メンバーについては、市内で活動されている団体や公的あるいは金融関係、被災地で事業をされている方などから選出していきたいと考えております。

(男性3) 人数、若者や女性に限るという条件は変わらないのですか。それだけでは話題が狭すぎて先が見えないのではないかという気がします。

(斉藤復興推進課長) 市外では、全国でまちづくりに関わっている方をアドバイザーとして有識者から加わっていただきたいと考えています。市民会議はオープンな形で進めていきます。

(男性6) さきほど意見のなかでにぎわいのトライアングルについて強い表現で見直しというような声もありましたが、見直しということを前提にして進めていくのか、あくまでも計画の位置付ける中で進めていく前提なのか現時点での状況をお聞かせください。また、にぎわいのトライアングルのうち拠点施設については、行政が進める建物になり、それについての議論や見直しは行政の方で進めていただければと思いますが、それ以外の2か所は民間の事業者なので、トライアングルが失敗(とん挫)というような表現を使われることのないように注意をお願いします。

	<p>(米田市長) 基本的な位置づけは変わりません。また、これまで進めきたなかである程度具体になってきたものは、そのまま進めていきます。新たに、にぎわい創出広場についても提案を出させてもらっていますので、そこのつながり等で多少変わる部分もあるかもしれませんが、近いところにあるということで連携をとっていかなければならないと考えています。復興まちづくり計画に位置付けたとおり、しっかりと取り組んでいきたい、もう少しお時間をいただきたいということでご理解いただきたいと思います。</p> <p>(女性1) 副市長にお聞きしたいのですが、このまちができて、副市長はこのまちに来たいと思いますか。</p> <p>(木村副市長) まさに今、まちをつくっている段階です。市内には人材がたくさんいて、あまり光が当たっていないだけじゃないかと感じています。そういう方と一緒にまちづくりをすれば、きっとよいまち、観光の方も来たいまちになると思います。これだけ熱い議論をされている、出席いただいているということは、まちへの思い入れがあるということです、みなさんと一緒につくっていきたいと思っています。</p> <p>(女性1) そのまちに来たいと思いますか。</p> <p>(木村副市長) 今はまだ厳しいと感じています。今、この街に来られるのはこのまちがどうなるんだろうという視察の方々。今度は、大火にあったけど、こんなまちになるんだ、こんなに頑張ったんだということを見せられる街にしていかなければならないと思います。</p> <p>(女性1) 糸魚川には、結構移住されてきている方がいらっしゃるの、市民会議でもそういう方の意見を聞いていただきたいし、副市長からも生まれも育ちも糸魚川という職員でない目線で、どんどん提案してほしいと思います。</p> <p>議題(4) (4) 消防本部からのお知らせ 説明：竹田消防防災課長 【質疑】 (女性1) 住宅用火災警報器の設置補助は、再建して新築の家でも利用することができますか。 (竹田消防防災課長) 新築の住宅の新規設置も可能です。</p> <p>議題(5) (5) その他 【質疑】 (男性3) にぎわい創出広場に屋根付きの建屋、防災の備蓄の話は、計画なのですか、決定なのですか。市民の了解が得られているものか確認させてください。 (齊藤復興推進課長) にぎわい創出広場の計画は、チャレンジミーティングという活用を想定する方との話し合いの中から、屋根がほしいとかトイレが必要、イベント時に使えるキッチンや日常時にも使いやすい集まりやすい場所という意見をいただいて構想に反映しているものです。大きさや中の設備の規模については、これから意見をうかがうこととなりますが、基本的には、備蓄倉庫も含めて、今回お示ししたもの</p>
--	---

<p>閉会</p>	<p>は建設していきたいと考えています。</p> <p>(男性3) 費用等は怎么样了ですか。</p> <p>(齊藤復興推進課長) 概算は業者からもらっていますが、まだ固まったものではありません。これから中身をつめてからの話になります。国の制度を活用する中で市の負担が少なくなるように進めていきます。</p> <p>(男性3) 具体的な数値が出ていないのに、計画は進めていくということですか。</p> <p>(齊藤復興推進課長) 大まかな数字あり、今この場で公表できるような中身ではありません。</p> <p>(米田市長) にぎわい創出広場については、いろいろところで話をさせていただいて、絞り込んだものの形の中でだいたいこのようなものが欲しいというのがまとまったところです。こののち詳細設計に入って、中身が明確になって費用が算出され、どのような補助金をあてるのかということも絞り込んでいきます。今回は、このようなものが欲しいというのをまとめたうえで、お示ししていますので、これから詳細な設計に入っていくということです。</p> <p>○復興まちづくり情報センターからのお知らせ 説明：齊藤（情報センター）</p> <p>【質疑】 無し</p> <p>全体を通して質疑</p> <p>(男性3) 今日、被災されていない一般の市民の方の参加者はどれぐらいですか。</p> <p>(渡辺係長) 人数だけ報告させていただくということでよろしいでしょうか。昼の部が6名、夜の部が8名、合計14名、受付の方でお名前をご記入いただいた方の数でございます。</p> <p>閉会</p>
-----------	--